

2025年度 探究型カリキュラム各授業学習目標・授業目標 科目名：3年アート思考アドバンスト

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートの理解に必要な歴史的背景やモチーフ・技法・展示方法などを適切に用いることができる ・社会課題や哲学的言説について理解し、アートと関連させて説明することができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートを見て感じ取ること（＝感性）を通して社会課題を多角的にクリティカルに捉え、自分の考えを構築することができる ・物事に一つの解答を求めるのではなく、複雑なまま受け入れて熟考することができる ・自分自身の価値観やモノの見方を俯瞰し、他との関係性のなかで相対的に意味づけることができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を通して自由に世の中を捉えることで、自分の未来の可能性を開いていくことができる ・他者の表現や言説を自分の価値観に照らして、主体的に想像することができる ・作家が内省を突き詰めて作品と対峙することを追体験することで、内在する自己の有りように向き合う姿勢を身につける 	
下位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①アート思考と論理思考の違いを理解し、用語として使い分けることができる。 ②対話型鑑賞や作品分析に必要な情報を集め、目的に応じて選択することができる。 ③アートにまつわる哲学的言説や時事、歴史的事実などについて自分の言葉で語ることができる。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①アートとそうでないものとの違いについて鑑賞者と作品との相対性やコンテキストによる関係性を意識して考察することができる。 ②一つのアート作品についての情報を総合し、自分なりの分析を施すことができる。 ③アートプロジェクトや文化政策、パブリックアート等を通してアートに関わる社会課題について推察し見通すことができる。 <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①より多くのアート作品や文献に触れようとするすることができる。 ②一つの作品やプロジェクトに関する学びに対して時間をかけることができる。 ③自らの考えを昇華させるために、他者とアートについて語り、互いの価値観を認める姿勢を身につける。 	

授業日	4/15(火)	1 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】③【学びに向かう力・人間性】①③ 本時の具体的な目標 ・課題解決型探究学習と調査検証型探究学習の手法の違いを理解し、今後の自分の取り組みに活かそうとする意識をもつことができる。 ・アートにまつわる探究のテーマを想起し、自らの興味関心を明文化することができる。		
時間 授業内容	5 時間目	課題解決型探究学習のフレームを概観し、課題解決のイノベーションにはアート思考が必要であることに気が付く。	
	6 時間目	ブレインストーミングや新聞記事からのインスピレーションによってアートに関するコンテンツをピックアップし、どのように探究として深めていくことができるのかを話し合う。	
評価方法	振り返りシートの記入内容に対して以下の評価基準で行う。 ・記述条件を満たしているかどうか ・発見やひらめきの質と量 ・どこまでを知っていてどこからを知らないのかが把握できているかどうか		
宿題指示	振り返りシートの記入		

授業日	4/22(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】③ 【思考力・判断力・表現力】②③【学びに向かう力・人間性】①③ 本時の具体的な目標 ・芸術評論を講読しアートにまつわる諸問題について理解を深めることができる ・アートにまつわる諸問題を想起し、自らの観点で問を設定することができる		
時間 授業内容	5 時間目	「バンクシーの社会的な問い」を講読し、「問い」の画期性が作品の価値とアーティストの名を高め、鑑賞者にたいし対しても「問う力」を促すことができるということを理解する。	
	6 時間目	自らの関心を基に、アートにまつわる諸問題に関する「問い」を立てることができる。	
評価方法	考察を記録シート、ルーブリックによる相互評価表を用いて評価する		
宿題指示	記録シートの記入、アートノートの作成		

授業日	4/30(木)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】③ 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】②③ 本時の具体的な目標 ・自らの関心を基に立てたアートにまつわる「問い」をきっかけに情報を収集することができる。 ・収集した情報から連鎖的に次の「問い」または関心事を引き出し、各種資料を横断的に活用することができる。		
時間 授業内容	5 時間目	ピックアップした項目に関して、「新書」「文献」「論文」「統計」「辞典」「雑誌」「WEB」	
	6 時間目	「新聞」の各種リソースから情報を収集する。 収集した情報に対して考察（分析・予測・推定・発見）を行う。	
評価方法	8 枚の情報カードの提出（次回授業で完結）		
宿題指示	アートノートの作成		

授業日	5/13(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】③ 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】②③ 本時の具体的な目標 ・自らの関心を基に立てたアートにまつわる「問い」をきっかけに情報を収集することができる。 ・収集した情報から連鎖的に次の「問い」または関心事を引き出し、各種資料を横断的に活用することができる。		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	ピックアップした項目に関して、「新書」「文献」「論文」「統計」「辞典」「雑誌」「WEB」「新聞」の各種リソースから情報を収集する。 収集した情報に対して考察（分析・予測・推定・発見）を行う。	
評価方法	8 枚の情報カードの提出（この授業で完結）		
宿題指示	特になし		

授業日	5/27(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】② 【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】②③ 本時の具体的な目標 ・具体的な事例からサイエンスアートの社会的機能について言葉で説明できるようになる ・興味関心に基づいて設定した探究テーマが他者とどのように関連させることができるのか調整することができる		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	生徒による『問から始めるアート思考』の講読、プレゼンを行った。長谷川愛や福原志保らのバイオアートの事例を取り上げ、科学者とアーティストの未来の示し方の違いについて理解を深めた。 生徒はそれぞれ調べてきた他の具体例を通して本文の理解を深めた。 各自の興味関心から共同研究の可能性について模索した。同じようなコンテンツを扱うチームの中でも関心事や手法に違いがみられ、どのように協同することで、どのような探究が可能であるのかを話し合った。 次回の授業ではより具体的な研究の展望や仮説の立案をすることを指示した。	
評価方法	講読・プレゼン用のルーブリックに基づいて相互評価を行った。 また、記録と考察の欄は後日、別のルーブリックに基づいて評価する。 評価項目は前回と同様。		
宿題指示	講読・プレゼンを聞いて記録したこと、考察したことをまとめたプリント（ポートフォリオ）を完成させる。		

授業日	6/3(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】② 【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】②③ 本時の具体的な目標 ・具体的な事例からサイエンスアートの社会的機能について言葉で説明できるようになる ・興味関心に基づいて設定した探究テーマが他者とどのように関連させることができるのか調整することができる		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	脇田玲や落合陽一のサイエンスアートがテクノロジーを通してむしろ、よりアナログな見えない体感世界を具現化する人間の根源を問うような作品であることに触れた。生徒はそれぞれ調べてきた他の具体例を通して本文の理解を深めた。 昨週に引き続き、研究調査班に分かれて共同研究の可能性について模索した。同じようなコンテンツを扱うチームの中でも関心事や手法に違いがみられ、どのように協同することで、どのような探究が可能であるのかを話し合った。 次回の授業では先行文献や先事例を調査することを指示した。	

評価方法	<p>講読・プレゼン用のルーブリックに基づいて相互評価を行った。</p> <p>また、記録と考察の欄は後日、別のルーブリックに基づいて評価する。</p> <p>評価項目は前回と同様。</p>
宿題指示	講読・プレゼンを聞いて記録したこと、考察したことをまとめたプリント（ポートフォリオ）を完成させる。

授業日	6/10(火)	1 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	<p>主なターゲット【知識・技能】②【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】②③</p> <p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルアートの可能性がエンターテインメントや広告の要素とどのような関係にあるのかを具体的な事例を念頭に理解することができる。 探究テーマに関する先行文献や先行事例について把握することができる。 		
時間 授業内容	5 時間目	<p>生徒による『〈問い〉から始めるアート思考』の講読、プレゼンを行った。真鍋大度によるライゾマティクスのパフォーマンスがエンターテインメントや広告の域を超えていかにして「アート」であるのかという点について理解を深めた。また、筆者がチームラボをエンターテインメントの域を超えないとした理由について考察した。</p> <p>それぞれの探究のテーマについて「先行研究や先行事例」を調べてくるよう課した。それぞれが、班のなかでどのような役割を果たして、同じゴールを目指すのかすり合わせに苦労していたが、少しずつ探究の道筋が見えてくるグループが増えてきた。</p>	
	6 時間目		
評価方法	<p>①講読・プレゼン用のルーブリックに従って相互評価を行った。</p> <p>また、記録と考察の欄は後日、別のルーブリックに基づいて評価する。</p> <p>②次回、先行研究・先行事例に関する調査プレゼンの内容を評価する。</p>		
宿題指示	①講読・プレゼンを聞いて記録したこと、考察したことをまとめたプリント（ポートフォリオ）を完成させる。		

授業日	6/17(火)	1 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	<p>主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】</p> <p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルアートの可能性がエンターテインメントや広告の要素とどのような関係にあるのかを具体的な事例を念頭に理解することができる。 探究のグループで研究について話し合うことで課題解決への展望を見通すことができる。 		
時間 授業内容	5 時間目	<p>生徒による『〈問い〉から始めるアート思考』の講読、プレゼンを行った。真鍋大度によるライゾマティクスのパフォーマンスがエンターテインメントや広告の域を超えていかにして「アート」であるのかという点について理解を深めた。また、筆者がチームラボをエンターテインメントの域を超えないとした理由について考察した。</p>	
	6 時間目	<p>各グループで「研究計画のプレゼン」を作成した。話し合いのセレンディピティ（偶発性）を活かしながらも、どこかで形にしなければならぬので、一人一人が具体的にどのような研究・行動をとるべきかを自覚することにつながった。</p>	
評価方法	<p>①講読・プレゼン用のルーブリックに従って相互評価を行った。</p> <p>また、記録と考察の欄は後日、別のルーブリックに基づいて評価する。</p> <p>②グループ研究計画プレゼンの内容を評価する。</p>		

宿題指示	研究計画プレゼンテーションの準備 アートライター賞の文章提出を9月9日提出期限とした。
------	------------------------------------------------

授業日	6/24(火)	1 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】②【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】②③ 本時の具体的な目標 ・デジタルアートと本物であることの意味についてブロックチェーン技術の活用から考察することができる ・探究のグループで研究について話し合うことで課題解決への展望を見通すことができる。		
時間 授業内容	5 時間目	生徒による『〈問い〉から始めるアート思考』の講読、プレゼンを行った。ビーブルの『エブリデイズ 最初の 5000 日』を取り上げ、複製可能で可塑的なデジタルデータがオリジナルであることを保証することがデジタルアートをアートの真作として存在させるのに必須であることに理解を深めた。その作品が生まれた文脈を背負うことで価値が認められているということはアートの作品論に通じる考察へと繋がった。 各グループの研究計画についてプレゼンを行い、相互にアドバイスすることで、研究プロセスの実現可能性や問いと仮説の妥当性について検証した。	
	6 時間目		
評価方法	①講読・プレゼン用のルーブリックに従って相互評価を行った。 また、記録と考察の欄は後日、別のルーブリックに基づいて評価する。 ②グループ研究計画プレゼンの内容を評価する。		
宿題指示	アートライター賞の日本語原稿を9月初めの授業までの提出期限とした。		